

第81回学習会議事録

1. 日時：8月28日（火）14：00～16：00
2. 場所：JAビル8F 全中大会議室
3. テーマ：「WTO 農業交渉をめぐる情勢について」
4. 講師：農林水産省 大臣官房 国際経済課 大澤 誠 氏
5. 参加者：100名

フォーラム会員、地方フォーラム会員、一般参加者

6. 概要：

- (1) 大澤氏より1時間20分程度、別紙資料「WTO 農業交渉をめぐる情勢について」にもとづき、第1部の「交渉の現状」においては、ドーハ開発アジェンダの交渉分野、交渉の流れ、交渉の現状と構図、7月の議長テキストへの我が国の評価、市場アクセス分野、国内支持分野、輸出競争等の議論等についての説明、第2部の「我が国と WTO 農業交渉」においては、食べ物の関税状況、日本農産物の関税構造、100%を越える高関税品目の例、我が国の重要品目の確保への取り組みの必要性とバランスの取れた交渉成果の追求のためには経産省を含んだ政府一体となった交渉の必要性等の報告があった
- (2) 会場参加者からは、各国の緑の政策への取り組み、アメリカ、EU の交渉スタンス、今後の交渉展開見込みについての質問があった

7. 主な質疑

- ①Q：緑の政策について、例えば環境関連で、各国との戦略的な連携等考えているのか。
A：途上国は、資金がないので構造的に緑の政策が使えないという問題がある。例えば農地改革関連等では使いやすくしたいという要望もあるが、環境関連での具体的なニーズはない。
- ②Q：アメリカは青の政策へに積極的に対応するといった情報とか、全く飲めないなどの話があるがどのような状況か。
A：事務レベルではまじめな議論をし、各問題に積極的に取り組んでいるが。閣僚レベルでは全く動かない状況。
各国の評価は、現政権は改革の意欲・意思・能力に欠けているのではと評価している。
6月の交渉で途上国側が退席したのは、前向きの発言がなく痺れを切らしたと理解している。

米国自体は農業法の議論中であり、補助金に手を付ければ下院が黙っていないだろう。

③Q：EU の対応であるが、フランスの問題やデカップリング等による政策変更は考えられるのか。

A：EU は、香港閣僚会議で記述されているように 2013 年までに輸出補助金を撤廃することとしており、よほどのことがない限り実行するだろう。EU 内では、加盟各国の首脳が欧州委員会に圧力をかけるという構図だが、欧州委員会は改革を進める医師を示している。

④Q：中国、インドの基本的な考え方や影響力はどうなっているのか。

A：ブラジルは途上国の名士として交渉のリーダーを取りたがっている。インドは人口が多く、輸入国。ブラジルはインドを重視しており手放さない。

アメリカはインドの麦市場に関心を持っており、G20 対先進国という構図。

一方、中国は新規加盟国グループとして特例措置を求めており、他にも G33 や G20 などにくっついて隠れている。アメリカが交渉でインドを攻めるのは、後ろに隠れている中国をあぶり出そうとしていることを意味する。

⑤Q：総務省調査によれば、国民の自給率向上への意識は非常に高いようだが、WTO 交渉の場で反映することへの見解はどうか。

A：WTO 交渉は非常に厳しいものであり、どのように決着するか誰もわからない。消費者には、現在の情勢をきちんと理解してもらい、交渉の最終段階での説明等これからも丁寧な説明に取り組んでいく。

⑥Q：9 月以降の交渉展開の見込みはどうか。

A：まとまるかどうかでさえ見えない状況である。

以 上